

公表 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

事業所名		運動療育はいたっち阿倍野教室				公表日	R8.3.1
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		同学年くらいのお子様と一緒に活動したり、場合によっては外の活動を行っている。	安全面を考慮してスペースを出来る範囲で確保したり、運動内容を考えていく。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		基本は1対1であるが、子供に合わせて1対2、2対1で行い、変更する際は保護者に確認をして支援を行っている。	マンツーマンで指導しているが、子どもの成長もあり同意を得た上で指導員1人で複数の児童をみることもある。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	1	パーティションや絵カードを使用して個別の場所が分かるようにしている。 私用している部屋に自分の名前を貼るなどして、自分の部屋が分かるようにしている。	臨機応変に絵カードや名前カードを作成していく。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5	1			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	1			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		終礼で共有したり、空き時間に勉強会や検討会を開いている。	今後も継続して研修など実施して知識を高めていく。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6	他事業者などによる評価がないため		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		一人ひとりが受講したい研修を伝える姿勢があるとさらに良くなると思う。 PTによる研修がある。		
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		支援計画を元にメニューを構成したり、その都度依頼された内容も反映している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		PTにおける標準化アセスメントツールを利用しているまで。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	1	多角的な視点による意見交換が少ない。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		メニュー構成時に確認している。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		PTによるモニタリング前後にもチェックを行っている。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		運動だけでなく社会性や行動面にもアプローチして内容や関わり方を選択している。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		ペアで行う場合や理学の内容など意見交換して決めることが出来ている。 一緒に運動を行う児童の情報を共有し、2人が出来ることや挑戦出来そうなことを考えながらプログラムを作成している。		

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		様々な経験ができるように固定化せず柔軟にしている。 今までのプログラムを見ながら、しばらく出来ていなかったことや、初めて行うプログラム等も取り入れながら行っている。 アセスメントにより意味のない内容の廃止、保育士による新しい内容の提案がある。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		各個人の課題に合わせた設定で個別や集団での活動を出来る範囲で行っている。 子供によって、一緒にできる運動、出来ない運動をみながら、時には別で運動するなどして活動している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		最大4名で活動を行う際も、メインで話す指導員を事前に決めてから活動するようにしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		記録なども行い管理している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		保育士による記録の研修により、抽象的な言葉を防ぎ、利用者の反応、養育の意図を書けているなど。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	5	1	「4つの基本活動」の内容を詳しく理解できていなかった。	
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		運動メニューや回数や時間などを決めてやり切る経験や決めた責任感を感じられるようにしている。 運動プログラムが4つある中で、最後に行う運動を子供に教えてもらったり、選択出来るようにしている。	今後も本児の意見や気持ちを大切にしてお関わっていきます。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	1	必要に応じて連絡をしている。	必要がある時は対応させていただきます。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	2	今年で卒業になる児童が初めてになるが、申し送りを作成する予定。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		6		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	4		
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	1	5		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		見学に来られている保護者には直接伝え、来られていない保護者に対しては、手紙や電話などで共有している。	こちらから保護者様への連絡を密に行い、よりよい支援を提供できるようにしていく。
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	4	関わり方のポイントなどをつたえている。	療育中の関わり方をみていただき、生活でも活かしていただいたりアドバイスを今後もさせていただきます。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6			

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		進級、進学にあたっての相談は職員にも共有し、支援を行っている。	今後も相談しやすい関係構築に努めていきます。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	2	4	療育の組み合わせを考え、保護者同士が繋がるようにしている。	同じ時間帯にご利用いただいている保護者の方は交流できているが、今後は施設として交流出来る場が持てるように検討していく。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6		子どもでもわかるように、写真や文章で運動の様子を発信している。 ブログを定期的に更新している。	ご利用者様にもっと認知していただけるように発信していることをお伝えしていく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		6		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6			
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	1		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	1	ヒヤリハットの件数が少なく月1回もない。	指導員間で振り返りができるようにちょっとしたことでもヒヤリハットとしてまとめて安全に療育が提供できるようにしていく。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	1		
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6				